

音羽館3階の部屋。窓から見渡すと、名前は知りませんが、高く綺麗な木が一本、目の前にぴったりと立っています。私はそれが気に入って、以前に写真を一枚撮ったことがあります。近頃その写真を見返して、はっと気づいたことがありました。写真に写っているのは、緑で生き生きとした姿でした。それと比べると、木は今、寒さの中ですっかり葉を落としていました。ベタな話ですが、忙しい生活の中で時間の流れを実感させてくれるのは、やはり自然の風景でした。一学期の時間は短く感じていましたが、留学生活が始まった頃の記憶は、少し薄れていました。

授業、読書、バイト、友だちとのお出かけ、そして講演やイベントへの参加で、一週間のスケジュールはすぐにいっぱいになり、ルーティン的な生活を送っていました。それ以外に割ける時間は少なく、留学生活を十分に充実させられていないのではないかという思いもありました。しかし振り返ってみると、学びは多く、日本ならではの体験がたくさんありました。

授業では、特に李先生の言語学と質的研究の授業が印象に残りました。基礎知識を固めることで、以前は難しく感じていた本も、今ではどの理論をもとに論じられているのかが分かるようになりました。

そして校外での活動として最も心に響いたのは、11月の同性婚東京高裁判決です。当日、私は現場にいました。朝の判決から午後の記者会見と説明会、そして夜のアフターパーティーまで、合わせて12時間。一人の外部者として、その日を見届けることしかできませんでしたが、人と人とのつながりの不思議さを改めて実感しました。性別・年齢・国籍・身分といった属性の違いは妨げにならず、同じ価値を共有することで、人と人は自然と結びついていきます。この感覚は、留学生同士交流の中でも繰り返し確かめられました。個人個人がポジショナリティを持ちながらも、交流の中でより多角的な視点を得て、視野が広がっていきました。

最後に、感謝の言葉を述べます。指導教員の李先生、いつも温かい言葉をありがとうございました。それから、やす、セイナ、ソヨン、ファヨン、ここで同じ日常を一緒に過ごせたことが、本当に楽しかったです。短い時間だからこそ、出会いの一つ一つが大切なものになりました。ここで出会い、関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。またどこかで。

